

PHAYAOLレポート 2006-02

初めての里帰り お土産は、「たくさんのお話」

“ホームシックも解消”？

「シャンティ寮・新入寮生」



それぞれの村に帰り、 家族と「いっぱい話をして」寮に帰ったばかりです。

遠くは、200 km、近くは 30 km ですが雨期になると4輪駆動車も通れない陸の孤島となります。粘土の路に、はまりこむと素足でさえ滑って歩けず、山間部の悪路は、多くのけが人や、急病人の命を奪いました。 また、貧困から病院に行くことをためらい手遅れで死んでいく人は、後を絶ちません。

こんな村からの新寮生、初めて町での集団生活、親に連れられてきたとき「村に帰りたくて、ベソをかき、1週間は、ホームシックで毎日枕をぬらしていました。 そんな子ども達の初めての里帰りで。

お土産は、「たくさんのお話」

寮では、ごはんがいっぱい食べられるよ・卵も・豚ももう何回も食べたよ・お兄さんやお姉さんがとてもよくしてくれるよ・そして寮の図書室には、本が沢山あるよ・電気があるから夜遅くまで勉強できるよ・休みの日には、テレビを見たり、みんなでサッカーやタックローもしているよ・町には、たくさんの人がいるよ・大きな学校だよ・先生もたくさんいて優しいけど、タイ語が早口なので少しわかりにくいけどー・・・でも、もう寂しくないよ、友達がたくさんできたからね・・・。

家からのお土産は、、バナナの葉っぱに包んだお餅・湯がいたトーモロコシ・ラムヤイ（りゅうがん）などをいっぱいもらって帰り、みんなで分け合いました。

今度帰れるのは、10月です。 あと、3カ月！！。 “お父さんお母さんありがとう”